

「過去、そして未来へ」

出席者

鴨打(副島)ヨシ(3回生) 土岐 邦三(7回生)
 生山 康夫(会長・4回生) 宮田 学(22回生)
 杠 一義(5回生) 足立(松瀬)慶子(31回生)
 真子 俊太河(6回生) 桑島(長友)千秋(31回生)

東京北星会も二十周年を迎えるにあたり、本日はその創設時のご苦勞や今後の運営等についてお話をお伺いするため、お集まり頂きました。

早速ですが、まずこの東京北星会がどのようにして出来たのかその辺りの経緯を伺いたいですか…

〔真子〕 その母体となったのは、私共六回生の同期会である六星会です。当時コーキ出版という会社に社長の松尾を始め同期生が七人いて、東京にいた同期の約一割を占めていたこともあって、中心的な役割を果たしていました。昭和五十四年でしたか、たまたま会合に先生を十人程度呼ぼうということになり、じゃあ同様に同期会をやっているという前後の会にも声をかけようということになった訳です。渋谷の109で開いたところ、百人程が集まり、そこで関東にいる同窓生を組織してはどうかとの意見が盛り上がり、会の終わりに各回一名の幹事を出してもらい、それが準備会みたいな形となったのです。

一番年長であり、北高の初代生徒会長として「ジャーマン」というニックネームで伝説的存在であった二回生の木村氏に無理を言って会長となって頂き、幹事長を真子、事務局はコーキ出版の浜田(六回生)という体制でスタートしました。

〔鴨打〕 第一回の総会は昭和五十五年、六本木のロアビルで参加者が二九六人、それ以降は二年毎として、第二回が渋谷の金王まつり(東邦生命ビル)で参加者三六〇人

6回生の同期会から始まった…

と飛躍的な拡大をみました。その頃から実質的な事務局を十三回生の浜副さんがおやりになっており、ご健康を害される迄精力的に活動して頂きました。

〔杠〕 何人集まってくれるのか全くわからない状況で、もし参加者が少なくて赤字になったら幹事が負担しなければならぬと思うと、同窓生を探して電話をかけたあたり、本当に必死だった。(笑)なにしろ自然発生的に始まっただけに、その分苦勞もひとしおでしたね。

〔鴨打〕 幹事も第一回総会の頃は十五、六回生まで十名程度だったのが、五十九年の第三回総会の頃には三十一回生にまで広がっていました。

今度の二十周年記念総会の開催場所が第一回総会と同じ六本木というのも何か感慨深いものがありますね。因みに現在の幹事は四十九回生までの五十九名となっています。

〔杠〕 幹事会一つとっても、当時は会場を探すのに苦勞してましたね。喫茶店でやりたりもしてましたが、なにしろ金がかかり、金銭的にも幹事の負担が大きかった。昭和五十八年から代々木にあるこの佐世保市の東京事務所を使わせてもらえるようになってようやく幹事会の場所だけは心配しなくてすむようになった。

〔真子〕 第三回の総会を機に会としての体裁を整えようということで、きちんとした名簿を作り、会則も弁護士さんの宮田さんをお願いして作ってもらった。



左より土岐、桑島(長友)、真子、生山、杠、鴨打(副島)の各氏

【土岐】 宮田さん、その時に苦労した事は？

【宮田】 まあ、できるだけ問題が出てこないように、曖昧に、ゆるやかにと…(笑)

【杠】 おかげで現在までほとんど手直しせずに済んでいる。(笑)

【鴨打】 この時に副会長をおくことになって、現会長の生山さんと私が務めることになりました。

【生山】 ところが木村氏が仕事が忙しくてどうにも会長を続けることができなくなり、第三回総会の後で交代することになった。

順番でいけば当然鴨打さんだったのに(笑)、珍しく遠慮して固辞されたものだから、私が会長となってしまった。思えばあれが運の尽きで、もうそろそろ引退したいと思いつながらもその後ずっと会長をやらされている。(笑)

【土岐】 もうこのまま永代会長でもよろしいんじゃないですか(笑)。しかし、当時は会長もお若かったですよ。

【生山】 東京北星会を始めたころは五十代なんて一人もいなかったんだから(笑)。一回生でも四十七〜八だったかな。あれからもう二十年だよ。東京北星会代表として本部の総会に出席を始めたのは昭和六十一年からだだったが、すごいどしゃ降りの日で、ずぶ濡れのスボンで舞台上立って挨拶するのが忘れられない思い出になっている。

【杠】 総会で一番苦労したのはイベントの内容でしたね。総会が終わったら、すぐ次の総会はどういう内容でやろうか考えてい

あの頃はみんな若かった。

る有様でした。

【鴨打】 第三回総会では卒業回毎に集合写真を撮ったりしたけれど、時間がかりすぎると不評だった。そうしたら次の総会では土岐さんが、よく観光地にあるようなベニヤ板に学生服とセーラー服の絵を描いて顔のところをくりぬいたものを作ってもらったものだから、皆無邪気に穴から首を出してキヤーカー喜んでいた(笑)。その後クラブ毎に集まるなどの企画もし、それが野球部だった人に現在幹事を多く務めてもらっているきっかけにもなりました。

【土岐】 平成六年に第八回総会を東京プリンスホテルで開いた時には、本部に頼んで東京北星会の旗を作ってもらい、そのお披露目をしましたね。

【鴨打】 あの時は初めてのガーデンパーティー形式で、当日まで天気心配ばかりしていたけれど、四〇九名とこれまでの最大の参加者となりました。

【土岐】 八回生でもあったゲストの坂井先生がかなりのお酒を召されたあげく、校歌斉唱などで大活躍され(笑)、とても盛りあがった会になりました。

【鴨打】 三十一回生の橋口さんが総会のイベントで力を発揮され始めたのも、あの時バンドを入れて頂いてからです。今では総会のイベント企画に欠かせない存在になってしまわれた(笑)。

【土岐】 前回の第九回総会では三十三回生の浦田さんにプロシンガーとして素晴らしいステージをみせて頂きましたし、ほん



足立(松瀬)さん



に若い人が活躍してくれるようになりまし
たね。

イベント以外の苦勞というと、やっぱり名
簿作りでしょうね。総会の都度に作るとい
う訳ではないので名簿自体の整備も大変だ
ったけど、なによりも広告取りがきつかつ
た。こんな苦勞するならよっぽど自分で金
を出そうかと思つた位……(笑)。

まあ、全て手弁当でやっている訳だから、
よっぽどボランティア精神に溢れた人でな
いと幹事は務まらない。それだけに、總會
が盛会で成功した時の満足感といったら何
にも代えがたい(笑)。

總會以外で東京北星会としての活動とい
うと？

【土岐】 春高バレーに北高が出場した時に
横断幕を作つて応援に行つたり、また幹事
の親睦会として始めたゴルフコンペも最近
は幹事以外の人も参加してもらい、年二回
開催しています。今後もっと多くの会員
に参加してもらい、盛大なコンペにしたい
ですね。

ところで北星会として以外に各回毎の同
期会も盛んだときいていますか？

【鴨打】 私たち三回生はいくつもの学校が
寄せ集められて北高として発足した当時の
生徒であるため、学校時代からとても仲が
良かったんです。そういうこともあって、
現在も「東京花の三期生会」として昭和三十
六年から毎年欠かさず同期会を開いていま
す。近年は一泊旅行となつていて、今年は
五十人が集まりました。

若い力が発揮されるようになりましたね。

【生山】 四回生は六十歳の還暦の時から毎
年集まるようになった。それまでは四回生
だからということ、四年に一回の集まりだ
つたのを、還暦の年に箱根へ一泊旅行をし
たところ五十人程集まり、「努頭触斗会(ど
がんしよつとかい)」という名前をつけ、会
則も作つた。まあ、四年に一回では元氣な
内に何回も集まれないということ(笑)、
それから年に一回の一泊旅行とそれ以外に
年三〜四回は集まっている。旅行幹事は持
ち回りだけでも、一泊旅行を実施しない限
り交代できない決まりになっている。だん
だん出席者も決まってきたり傾向にあ
るが、もっと多くの同期生が出席する楽し
い会にしたいと思つている。

【杠】 五回生は昭和二十八年の卒業なので、
「二八会」という名前です。われわれが北高
の正式な第一回生のようなもので、清水中
の卒業生が一番多かった。私の結婚式の時
に清水中の時の友達を呼んだのですが、彼
らが新婚旅行の見送りに東京駅まで来てく
れたところ、そこで清水中で同期だった女
性達にばつたり出会つて、そのほとんどが
北高でしたので、それがもつて同期会が始
まったといういわくがあります。毎年集ま
っていますが、複数幹事制で五〜六人位で
幹事を交代で務めています。その他に年二
回のゴルフコンペなど頻繁に会つているた
め、北星会となると出席率が悪くなるのが
悩みです。

東京北星会が結成される前は、先輩達の同
期会と呼ばれて出ることもありましたが、



カット／山口景昭(2回生)

当時は一年違うと雲の上の存在みたいな感じで(笑)、先輩達が恐かったし、やはり居心地が悪く、次第に呼ばれても行かなくなりました(笑)。

【真子】ほんと、えすかったですね。(突然の佐世保弁に一同爆笑)

【土岐】だけど今はすっかり様変わりしましたね。幹事会なんてこれだけ歳が離れている連中が集まって本当に和気藹々とやっている。むしろ違う世代と話すことを楽しんでる感さえありますね。

【生山】ライフスタイルの変化なのか、まだ年が若いから同窓会などに興味ももてないのか、とにかく最近の人は同窓会はおろか同期会すらやらなくなってきたのではないか。

しかし、同じ学校で学んだ仲間というのは大切な絆であることは間違いない。それを断ち切らないようにするには、まず同期会をやって、それを核にして組織化していくことが重要だと思います。

年寄りの思い出話ばかり聞いていますと時間もなくなり(笑)、諸先輩の遺言はこれ位にして(笑)、次代の北星会を担う若い人のご意見を伺いたいのです
が...

【桑島】生山会長がおっしゃられた通り、私達の世代は同窓会に対する意識はまだまだ低くて、総会に人を集めるのが大変な苦労です。今日、創設期のご苦労をお伺いして、今後も北星会が発展するよう力を尽くしたいと感じています。

今後の課題、若い世代の北星会参加。

【足立】北高も合同選抜になって以降、伝統の重みというか、昔の北高は凄かったんだというようなことが、話にはきいていてもなかなか実感できないようになってきています。私自身、在校中に母から何かにつけ「北高に行っているんだから」などと言われても、それがどういふことなのかかわかりませんでした。ところが、東京北星会の幹事をやるようになって、諸先輩のお話を伺っていると、本当にこんな凄い学校だったんだ、昔の人は素晴らしい伝統を築いてこられたんだと肌を感じるようになりました。そういう経験から言うと、同期会だけでは駄目なんです。

私達には伝統を伝えることはまだできないんです。こればかりは、同窓会に参加して先輩に接し、お話を直に伺わなければ駄目なんです。そういう意味でも総会に若い人がもつともっと出席するように頑張らなければならぬと思います。

大変なお褒めを頂いて諸先輩も面映いお顔をなさっておりますが、若い方の力強いご意見で今日の座談会を閉めさせて頂きます。どうもありがとうございます。

平成九年十月二十日

佐世保市東京事務所にて

構成・文責：小川和彦(二十五回生)